



言語表現コース

ことばの学校

第4期 基礎科

募集要綱

2024

ことばの学校 第4期に向けて

2024年10月、映画美学校言語表現コース「ことばの学校」は第4期を迎えます。

特定のジャンルに限定するのではなく、言語を用いた表現全般、その根元に存在する「ことば」の無限の可能性について広く学ぶことを目的とする本校は、それがゆえに「こんな学校にいったいどのくらいの数の人が興味を持ってくれるのだろうか?」という一抹の心配とともにスタートしました。しかし蓋を開けてみると、こちらの想像をはるかに上回る受講者が集まり、多彩なゲスト講師が入れ替わり立ち代わり、それぞれの「ことば論」を語る完全オンラインの基礎科、より実践的な「書くこと」のレッスンであるハイブリッド(対面+オンライン)の演習科、いずれも好評をいただくことで、ついに4期目に突入することになりました。

ことばの学校は、プロの書き手を目指すスクールとは違います。しかし幸いなことに、すでに過去の修了生でデビューした方が何人もいらっしゃいます。必ずしもそうした明確な結果が目的であるわけではないとはいえ、非常に喜ばしいことです。自分のことばを他者に届けること、自分のことばの個性と魅力を他者に伝えられることは、いつだって、どのような場合であれ、望ましいことであるはずだからです。

そのようなことではないとしても、三期にわたって続けてきたから今だからこそ、確かな手応えとともに言えることですが、テクニックやノウハウを学ぶものではない(実際にはそういう要素もかなりあるのですが)ことばの学校は、主任講師の私も、どういうわけか、としか形容できないのですが、不思議な力を秘めた魔法のような作用で、あなたのことばを間違いなく変えます。それに、あなたは、あなたとは別のことばを持った、しかしながら同じく自分のことばを変えようと願う仲間と出会うことになります。それは自分のことばの読者を得ることであり、自分自身が仲間たちのことばの読者になるということでもあります。

ことばに何ができるのか? あなたのことばに何ができるのか? あなたたちのことばに何ができるのか?

簡単に答えましょう。

たくさんの、ほんとうにたくさんのことができます。

多くの申し込みをお待ちしております。

映画美学校言語表現コース ことばの学校 主任講師 佐々木敦



佐々木敦(思考家／批評家／文筆家)

音楽レーベルHEADZ主宰。芸術文化の様々な分野で執筆などを行っている。著書多数。近刊として『「教授」と呼ばれた男 坂本龍一とその時代』(筑摩書房)、『成熟の喪失 庵野秀明と『父』の崩壊』(朝日新書)。

言語表現コース ことばの学校 とは

- 言語表現のさまざまなジャンルや形式に触れ、「自分が自分だからこそ書ける言葉」を発見し、獲得することを目指します。
- 基礎科と演習科（各半年間）に分けて募集。基礎科は全 16 名の講師による講義（16 回）と主任講師の佐々木敦による講義（4 回）の全 20 回の講義となります。各講師の「ことば」の考えを聞き、さまざまな「ことば」を習得します。
- 演習科は 4 名の専任講師による課題講評が中心と、より実践的な講義となります。またスペシャルゲストによる特別講義も予定しております。
- 基礎科はオンラインで実施、演習科は対面とオンラインの併用で実施。遠方でも受講が可能です。
- 座学のほか、基礎科は主任講師、演習科は主任講師と専任講師による課題講評を受けることができます（正規生のみ）。
- より気軽に参加ができる聴講制度を導入。自分の好きなタイミングで講義を閲覧することができます（基礎科のみ）

正規受講生：講義をリアルタイムで参加・講師陣への質疑応答・主任講師による課題講評・講義アーカイブの視聴可能・

定員あり

聴講生：安価で講義のアーカイブを閲覧・開講後でも申し込みが可能・定員なし

言語表現コース ことばの学校 基礎科 講義スケジュール

年月日	曜日	時間	講師
2024 年 10 月 3 日	木	19:30-	佐々木敦
10 月 10 日	木	19:30-	佐々木敦
10 月 17 日	木	19:30-	藤野可織+佐々木敦
10 月 24 日	木	19:30-	佐藤究+佐々木敦
10 月 31 日	木	19:30-	百瀬文+佐々木敦
11 月 7 日	木	19:30-	小山田浩子+佐々木敦
11 月 14 日	木	19:30-	岸政彦+佐々木敦
11 月 21 日	木	19:30-	奥村雄樹+佐々木敦
11 月 28 日	木	19:30-	柴田聰子+佐々木敦
12 月 5 日	木	19:30-	磯崎憲一郎+佐々木敦
12 月 12 日	木	19:30-	佐々木敦
12 月 19 日	木	19:30-	川添愛+佐々木敦
2025 年 1 月 9 日	木	19:30-	福永信+佐々木敦
1 月 16 日	木	19:30-	児玉美月+佐々木敦
1 月 23 日	木	19:30-	樋口恭介+佐々木敦
1 月 30 日	木	19:30-	長嶋有+佐々木敦
2 月 6 日	木	19:30-	三宅香帆+佐々木敦
2 月 13 日	木	19:30-	吉村萬壱+佐々木敦
2 月 20 日	木	19:30-	津村記久子+佐々木敦
2 月 27 日	木	19:30-	佐々木敦

ことばの学校 基礎科 講師プロフィール



磯崎憲一郎(小説家)

1965年千葉県生まれ。2007年に「肝心の子供」で文藝賞、2009年に「終の住処」で芥川賞、2011年に「赤の他人の瓜二つ」で東急文化村ドゥマゴ文学賞、2013年に「往古来今」で泉鏡花文学賞、2020年に「日本蒙昧前史」で谷崎潤一郎賞を受賞。他の著作に「眼と太陽」「世紀の発見」「電車道」「鳥獣戯画」「金太郎飴 磯崎憲一郎 エッセイ。対談・評論 2007-2019」「日本蒙昧前史 第二部」、横尾忠則氏・保坂和志氏との共著「アトリエ会議」等がある。東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授。



奥村雄樹(芸術家／翻訳家)

1978年青森県生まれ。個別の生の孤絶性を仮に開くために言語を、個別の身体の独自性を直に写すために行行為を用いつつ、様々な媒体で制作に取り組む。近年の寄稿に「The Depersonalization of Artist」(Nothing Personal, 2021)、「私たちの誰もが」(美術手帖, 2021)、「翻訳と密室あるいは世界の終わりとワームホール」(GATEWAY, 2020)、「未来への反復」(現代の眼、2018)など。美術に関する論考の翻訳や映像の字幕も手がける。



小山田浩子(小説家)

1983年広島県生まれ。2010年「工場」で第42回新潮新人賞受賞。2013年、同作収録の単行本『工場』で第30回織田作之助賞受賞。2014年「穴」で第150回芥川龍之介賞受賞。著書に『工場』『穴』『庭』『小島』(以上新潮社刊)、『パイプの中のかえる』『かえるはかえる パイプの中のかえる2』(以上twililght刊)。



川添愛(言語学者、作家)

九州大学大学院ほかで理論言語学を専攻。博士(文学)。津田塾大学特任准教授、国立情報学研究所特任准教授などを経て、言語学や情報科学をテーマに著作活動を行う。著書に『言語学バーリ・トゥード』『白と黒のとびら』シリーズ(東京大学出版会)、『聖者のかけら』(新潮社)、『世にもあいまいなことばの秘密』(ちくまプリマー新書)など。



岸政彦(社会学者)

社会学者・作家。京都大学教授。専門は沖縄社会論、生活史、社会調査方法論。主な著作に『同化と他者化』『街の人生』『断片的なものの社会学』『質的社会調査の方法』『ビニール傘』『はじめての沖縄』『マンゴーと手榴弾』『図書室』『リリアン』『地元を生きる』『大阪』『東京の生活史』『生活史論集』『沖縄の生活史』『大阪の生活史』『にがにが日記』『所有とは何か』など。



児玉美月(映画批評家)

共著に『彼女たちのまなざし——日本映画の女性作家』(フィルムアート社、2023年)、『反=恋愛映画論——『花束みたいな恋をした』からホン・サンスまで』(ele-king books、2022年)、『「百合映画」完全ガイド』(星海社新書、2020年)。映画祭審査員、劇場用プログラムほか寄稿多数。



佐藤究(作家)

1977年福岡県生まれ。2016年『QJKJQ』で江戸川乱歩賞を受賞。『Ank: a mirroring ape』で大藪春彦賞、吉川英治文学新人賞を、『テスカトリボカ』で山本周五郎賞、直木賞を受賞。他の著書に『幽玄 F』『爆発物処理班の遭遇したスピン』がある。

撮影：西田香織



柴田聰子(シンガー・ソングライター／詩人)

シンガー・ソングライター／詩人。大学時代の恩師の一言をきっかけに活動を始める。2012年、『しばたさとこ島』でアルバム・デビュー。2016年、詩集『さばーく』を上梓し、第5回エルスール財団新人賞受賞。2023年、エッセイ集『きれぎれのダイアリー』を上梓。2024年、最新アルバム『Your Favorite Things』をリリース。



© 每日新聞出版

津村記久子(小説家)

1978年大阪市生まれ。2005年「マシーター」(のちに「君は永遠にそいつらより若い」に改題)で太宰治賞を受賞してデビュー。2008年「ミュージック・プレス・ユー!!」で野間文芸新人賞、2009年「ポトスライムの舟」で芥川賞、2011年「ワーカーズ・ダイジェスト」で織田作之助賞、2013年「給水塔と亀」で川端康成文学賞、2016年「この世にたやすい仕事はない」で芸術選奨新人賞、2017年「浮遊島ブラジル」で紫式部文学賞、2023年「水車小屋のネネ」で谷崎潤一郎賞を受賞。同作で本屋大賞二位。他の作品に「アレグリアとは仕事はできない」「カソウスキの行方」「サキの忘れ物」「やりなおし世界文学」「うどん陣営の受難」など。



長嶋有(作家)

1972年生まれ。『猛スピードで母は』で芥川賞、『夕子ちゃんの近道』で大江賞、『三の隣は五号室』で谷崎賞を受賞。近著に『トゥデイズ』『今も未来も変わらない』、漫画アンソロジー『いろんな私が本当の私』(原作)がある。



樋口恭介(作家、編集者、コンサルタント。anon inc. CSFO、東京大学大学院客員准教授)

『構造素子』で第5回ハヤカワSFコンテスト大賞を受賞。『未来は予測するものではなく創造するものである』で第4回八重洲本大賞を受賞。編著『異常論文』が2022年国内SF第1位。他に、anon press、anon records運営など。



© ナマエミョウジ

福永信(小説家)

1972年生まれ。著書に『星座から見た地球』、『――――』など。アンソロジー編集に『こんにちは美術』、『小説の家』など。企画協力展覧会に『カワイオカムラ ムード・ホール展』、『絵本原画ニヤー! 猫が歩く絵本の世界展』、『芦屋の時間 大コレクション展』など。



© 森山祐子／anan

藤野可織(小説家)

2006年「いやしい鳥」で第103回文學界新人賞、2013年「爪と目」で第149回芥川賞受賞。近著に『ピエタとトランジ』、『来世の記憶』、『青木きららのちょっとした冒険』など。



三宅香帆(文芸評論家)

文芸評論家。京都市立芸術大学非常勤講師。1994年生まれ。高知県出身。京都大学人間・環境学研究科博士前期課程修了。小説や古典文学やエンタメなどの幅広い分野で、批評や解説を手がける。著書『人生を狂わす名著50』『文芸オタクの私が教える バズる文章教室』『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』等多数。



百瀬文(美術家)

1988年東京都生まれ。映像によって映像の構造を再考させる自己言及的方法論を用いながら、他者とのコミュニケーションの複層性を扱う。近年は映像に映る身体の問題を扱いながら、セクシュアリティやジェンダーへの問い合わせを深めている。主な個展に「百瀬文 口を寄せる」(十和田市現代美術館、2022年)、主なグループ展に「国際芸術祭 あいち2022」(愛知芸術文化センター、2022年)など。主な作品収蔵先に、東京都現代美術館、愛知県美術館、横浜美術館などがある。



吉村萬壱(小説家)

1961年生まれ。2001年「クチュクチュバーン」で第92回文學界新人賞受賞。2003年「ハリガネムシ」で第129回芥川龍之介賞受賞。2016年『臣女』で第22回島清恋愛文学賞受賞。小説作品は他に『ボラード病』『虚ろまんていっく』『CF』など。最新作は小説『みんなのお墓』。他に漫画『流しの下のうーちゃん』、エッセイ『哲学の蠅』など。

言語表現コース ことばの学校 第4期基礎科 招募要項

●受講期間:2024年10月3日(木)～2025年2月27日(木)

●受講資格:18才以上(学歴、経験の有無は問いません)。

講義参加・課題提出や学校からのお知らせを受け取る際にインターネット環境が必要となります

●募集人員:【正規受講生】100名 【聴講生】定員なし

※申し込み後の移動はできません。※聴講生はリアルタイム参加は出来ません

●講義場所:オンライン

<オンライン講義での受講条件>

・WEB上のオンライン会議サービスを使用するため、Wi-Fi環境を推奨します。

・DropboxやGoogleDriveなどのクラウドを使用することができます。

●講義日程:毎週木曜19:30～22:30

※講義により延長の可能性があります。

※講師のご都合により講義日程や講師に変更の可能性があります。ご了承の上お申込み下さい。

●講義回数・受講料:全20回／【正規受講生】77,000円(税込) 【聴講生】44,000円(税込)

※一括納入が原則ですが、ご希望の方には分割払いでのお支払いもご案内をいたします。

●入学登録料:10,000円(税込)※映画美学校通年講座をはじめて受講される方のみ

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして

【正規受講生】総額77,000円(映画美学校を初めて受講される方は87,000円)

39,000円を前払い(映画美学校を初めて受講される方は49,000円) 残額38,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	77,000	39,000	38,000	1,596	39,596	9,899

【聴講生】総額44,000円(映画美学校を初めて受講される方は54,000円)

22,000円を前払い(映画美学校を初めて受講される方は32,000円) 残額22,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	44,000	22,000	22,000	924	22,924	5,731

(単位:円／税込)

●申込期間:正規受講生:7月27日(土)昼12:00から9月25日(水)20:00まで

聴講生:7月27日(土)昼12:00から2025年1月31日(金)まで

申し込みはこちら

※正規受講生は締切日以前に定員に達した場合、申込受付を締め切らせていただきます。



●申込方法:オンラインによる申込。映画美学校ホームページよりお申し込みください。

●受講手続:申込書を映画美学校で受理後、メールにてご入金手続きの案内をさせていただきます。案内に従って、指定の期日までにお振込下さい。ご入金が確認された時点で申し込み受付完了となります。

※一旦納入された受講料は原則として返金できません。

※講義開始に際わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます(詳しくは映画美学校約款をご参照ください)。

映画美学校約款

■受講上のご注意

- ◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがあります。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

■受講取消の扱い

- ◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令(コピー可)など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

■受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90%

29日前～14日前まで：全額の75%

13日前～7日前まで：全額の50%

6日前～1日前：全額の25%

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

■安全面について

- ◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前に集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

■著作権について

- ◎本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することができます。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前(松濤郵便局前)交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月~土) 12:00~20:00

